

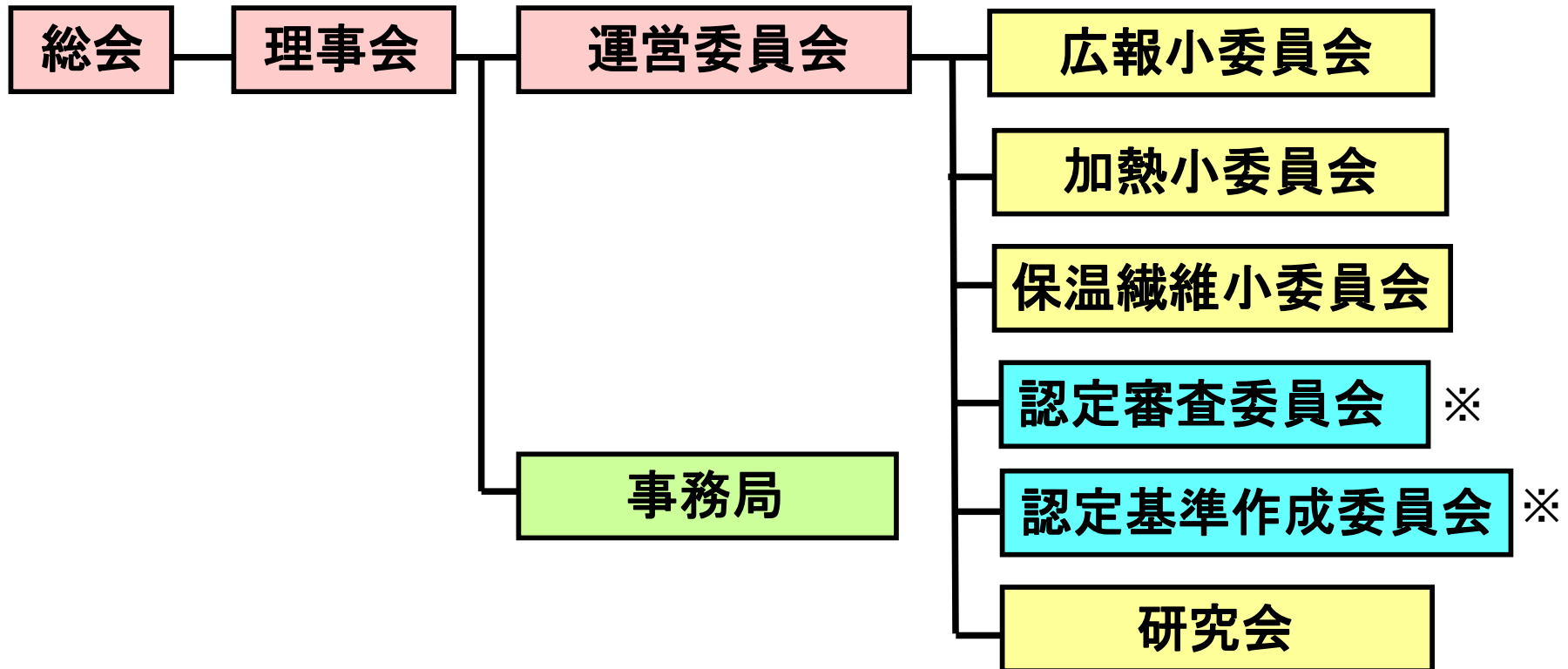
1. 遠赤外線技術の基礎から専門知識の習得  
遠赤外線技術文献や保有データベース（195冊）の閲覧
2. 分光放射率や効果測定法の習得・基準化への参画  
認定基準の品目拡大（空気層ある寝具や衣料・遠赤ヒータ）  
測定機関相互のラウンドロビン試験やJIS原案作成への参画
3. 認定マーク取得による差別化  
認定基準の習得（認定申請手順）、認定研修会の受講  
認定品のホームページで製品PRによる販売支援
4. 会員同士の技術交流の場を提供  
技術研修会、技術シンポジウムの技術情報収集と技術交流
5. 経済産業省や他協会／団体からの情報を提供  
税制や補助金制度、関連予算の各種情報提供
6. 経済産業省該当部門や関連団体への相談対応  
公的機関への相談、市場の苦情・課題の対応窓口（相談多数）
7. 外部企業とのビジネスマッチング相談の場を提供  
異業種と会員とのコラボレーション支援（相談）

## 協会の概要

遠赤外線は、加熱・乾燥、暖房、繊維、さらに、医療にまで多岐にわたり用いられる、古くて新しいエネルギーで、今後は**環境保全、省エネルギーに対応する有効なエネルギー**として注目されています。

当協会は、これらの遠赤外線関連製品・技術に関する調査及び研究、情報の収集及び提供、普及及び啓発、国内外の関係機関などとの交流及び協力を行い、**遠赤外線関連産業の振興及び消費者の保護**を図るための活動をしている日本国内唯一の非営利法人です。

- 1990年 6月 日本ガイシが中心となり遠赤外線産業協会を設立  
(経済産業省所管)
- 1992年 6月 社団法人 遠赤外線協会 設立
- 2010年 5月 遠赤外線協会認定マーク商標登録
- 2012年 4月 非営利団体・一般社団法人 遠赤外線協会 設立
- 2013年10月 港区芝公園に事務所移転(事務所費削減の為)
- 2015年 3月 一般社団法人への法人格の変更に伴う留保金減額  
が完了。(内閣府監督)
- 2016年 6月 新役員体制へ移行。法人格変更後の財政運営は、  
新体制にて成長戦略の立案活動を本格化
- 2016年11月 技術シンポジウムにて、経済産業省の「後援」を得る
- 2018年 4月 機械システム振興協会のH30年度委託事業を受託
- 2018年 6月 第26回定時総会で2018～19年度役員体制の承認  
⇒2年間キーワード「遠赤外線 暮らしを変える 未来を変える」



※ 認定審査委員会・認定基準作成委員会は外部有識者で構成されている。  
 (第3者機関の立場で審査する)

## 1) 調査研究

経済産業省関連の受託調査研究

日本機械工業連合会、機械システム振興協会、日本規格協会と連携、自主委託調査研究、自主研究会の開拓（過去報告書データベース化：以下一例）

- ・日機連：遠赤外ヒーターの放射エネルギーを簡易的に評価する方法の調査報告
- ・日機連：放射伝熱の適用分野と具体的な事例による省エネ効果検証に関する報告
- ・日機連：簡易型常温域遠赤外線放射エネルギー計測に係る調査研究報告（2006年）
- ・自主事：遠赤外線による食味向上研究会：パンを食材とする遠赤外加熱効果の検証

## 2) 産業基盤整備

標準化体系の整備（経産省関連の委託調査研究）

【 JIS規格の認定 】 ・ ・ ・ 今後、ISO整合や高機能化に対応

JIS Z 8117 「遠赤外線用語」

JIS R 1801 「FTIRによる分光放射率測定法」

JIS R 1803 「遠赤外ヒータの遠赤外域における分光放射エネルギーの測定方法」

## 3) 省エネ税制・中小企業対策・グローバル展開支援

経済産業省、日本機械連合会、省エネルギーセンター（JASE-W）からの情報提供

\* JASE-W：世界省エネルギー等ビジネス推進協議会(Japanese business Alliance for Smart Energy Worldwide)

## 1) 調査研究：平成30年度機械システム振興協会委託事業

「寝具及び衣料製品の遠赤外線放射測定手法に関する戦略策定」が採択。従来無かった「空気層などを有する寝具・衣料品の新測定装置・評価法を開発」に着手。大学、県産技研、測定機関、企業で構成の委員会を立ち上げ検討を開始。

8月初旬に装置が完成し測定手順や製品測定（横国大）を実施予定。

数年後を見据えた新測定法を使った認定基準やJIS化を通じ、優良誤認品選別と本分野の産業展開や国際競争力強化を図る提案を報告書に纏める。

## 3) 省エネ・グローバル展開支援：省エネセンター（JASE-W）との連携

「国際展開技術集2018」作成とWebアクセス数推移

書籍（web公開）に、省エネ事例として遠赤外線技術&製品を5品目掲載。

「遠赤外線暖房」「遠赤外線乾燥」「遠赤外線による食品加工」「遠赤外線暖房機器」、「放射空調システム」。2017年度よりアクセス数を月毎集計。

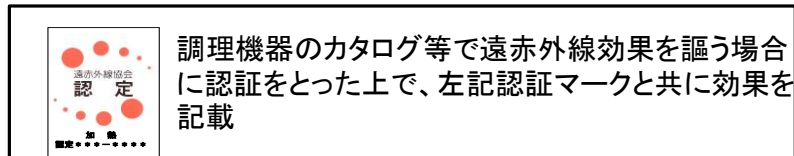
結果：アクセス数ベスト10に「遠赤外線乾燥」「放射空調システム」がランクイン。国内外での産業機器や空調で「遠赤外線技術」や「放射技術」の関心が高いことが伺える。ビジネスチャンスに繋ぐべく随時、情報提供を行う。

\* JASE-W：世界省エネルギー等ビジネス推進協議会(Japanese business Alliance for Smart Energy Worldwide)

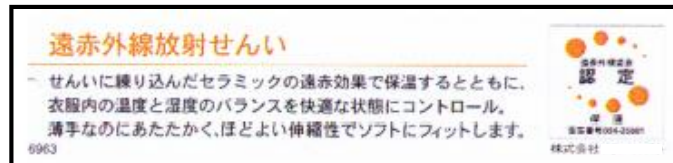
URL：<https://www.jase-w.eccj.or.jp/technologies-j/index.html>

## 4) 認定制度(認定マークの普及)

### 加熱系(効果を記載)



### 保温・繊維系(効果を記載)



消費者に安心いただける遠赤外商品の普及を願い、平成8年10月「遠赤外線自主認定制度」を発足させた。認定商品は、現在、**以下の7品目で累計134件**。

対象製品：「電気こたつ」「電気暖房器」「石油ストーブ」「電気調理器」「ガス調理器」「直接身に付ける繊維製品（肌着、靴下、サポート等）」「装身具（ネックレス等）」

URL：<http://www.enseki.or.jp/nintei.pdf>

⇒2018年度：空気層を有す寝具・衣料の放射測定法・評価法開発（2019年度以降標準化）

### 【認定マークのメリット】

検査機関の遠赤外線放射測定と遠赤外加熱や保温の効果を検証し、安全・品質体制も含めた認定システムであり、コンシューマー製品では認定マークが消費者にとって安心の基準となり、認定製品は、販売上の大きなメリット（優位点）となる。また、国民生活センターや消費者団体からも認定マークの普及が望まれている。

\* 「協会認定基準」を満たし「品質保証」「クレーム処理」体制の整備が要件で、学識経験者、消費者団体、協会代表者で構成される「認定審査委員会」にて審議し、合格商品にのみ「認定マーク」使用が許諾される。

2018.7.19時点 会員数

電気・ガス関連	正会員	8	15
	賛助会員	7	
保温・繊維関連	正会員	5	11
	賛助会員	6	
宝飾・素材関連	正会員	4	4
	賛助会員	0	
他団体・個人会員	団体	2	6
	個人	4	

36

